



Title	インプラントの形状と連結様式がインプラント頸部の骨吸収に与える影響に関する後ろ向き観察研究〔論文内容及び審査の要旨〕
Author(s)	谷口, 昭博
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(歯学)
Dissertation Number	甲第15947号
Issue Date	2024-03-25
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/92519
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/
Type	doctoral thesis
File Information	Akihiro_Taniguchi_abstract.pdf, 論文内容の要旨



学位論文内容の要旨

博士の専攻分野の名称 博士（歯学） 氏 名 谷口 昭博

学 位 論 文 題 名

インプラントの形状と連結様式がインプラント頸部の 骨吸収に与える影響に関する後ろ向き観察研究

キーワード Marginal bone loss, インプラント, 連結様式, インプラント体頸部
形態, 後ろ向き観察研究

インプラントはきわめて高い成功率が報告されているが、一方でリスクも多数あり、原因が不明確なインプラント頸部の骨吸収（Marginal bone loss, MBL）もある。埋入初期の MBL は、長期の予後に影響を及ぼすとされており、機能開始後 1 年で 1.5mm を超える MBL が認められた症例はその後も骨吸収が持続すると報告されている。したがって、初期の MBL を一定範囲に抑制することは、長期的に安定した治療成績を得るには重要と考えられる。MBL には多くの要因が関与するが、とくに近年はインプラント体とアバットメントとの連結様式の影響が着目されている。POI EX（京セラ）の連結はバットジョイントであるのに対して、FINESIA（京セラ）はモーステーパージョイントで強固にインプラント体とアバットメントが連結されるため微小漏洩やマイクロモーションが小さいとされている。また、インプラントの直径よりも細いアバットメントを使用するブラットフォームシフティングにより MBL を小さくできると考えられている。さらに FINESIA のインプラント体頸部には、骨形成を促進するとともに荷重を分散してインプラント頸部の骨吸収抑制に効果があるとされているマイクロスレッドが付与されている。しかし、この 2 種類のインプラントの MBL の違いは不明であり、また、MBL には多様な要因が影響することから、交絡因子を調整して慎重に評価することが必要である。そこで、POI EX と FINESIA の 2 種類のインプラントを対象として、MBL に及ぼすリスク因子を、北海道大学病院生命・医学系研究倫理審査委員会の承認（臨床研究番号：生 022-0120）を得て後ろ向き観察研究により検討した。

対象患者は 2006 年 11 月 1 日から 2021 年 9 月 30 日までの間に医療法人晃和会谷口歯科診療所に通院してインプラント治療を行い、1 年以上経過観察した患者とした。選択基準は、POI EX または FINESIA によるインプラント治療が行われ、埋入時と補綴処置 1 年後にパノラマエックス線撮影が行われた者、本研究の参加について研究対象者もし

くは代理人から自由意思による同意が得られた者、もしくは拒否の申出がなかった者とした。

調査項目は患者背景のほか、文献的に MBL に関連が報告されている要因とし、インプラント体埋入時に 7 項目、補綴時に 7 項目、機能開始 1 年後に 7 項目を診療情報から収集し、MBL は埋入時と 1 年後の骨レベルの差から算出した。統計学的解析は、POI EX を用いた群と、FINESIA を用いた群に分けて比較するとともに、MBL が 1.5mm 以上と 1.5 mm未満の 2 群に分類してロジスティック回帰分析により MBL に及ぼす因子の影響を分析した。解析は Bell Curve for Excel version 3.20 (株式会社社会情報サービス) を用いた。

その結果、POI EX を埋入したのは男性 56 名、女性 70 名の合計 126 名(平均 55.0 歳)、FINESIA は男性 58 名、女性 64 名の合計 122 名(平均 56.9 歳)であった。インプラントの種類は POI EX が 303 本、FINESIA が 277 本で、1 年後の MBL はそれぞれ 1.33 mm と 0.67 mm であった。

1 年後の MBL が 1.5 mm 以上または 1.5mm 未満で 2 群に分類して比較した結果、両群間に有意差がみられたのは、性別、インプラントの種類、インプラントプラットフォームと骨頂部との距離、埋入時に 5 mm 以上のプロービングデプスがある患者、埋入から咬合負荷開始までの期間であった。さらに、ロジスティック回帰分析では、インプラントの種類はオッズ比 10.89, 95%信頼区間 5.75-20.61, $p < 0.001$ で有意差が認められた。これは、性別のオッズ比 2.26, 喫煙の有無 2.75, 埋入時に 5 mm 以上のプロービングデプスがある患者数 2.13 に比較して大きな値であり、FINESIA は POI EX に比較して初期の MBL リスクが小さいことが示された。

今後は、FINESIA で初期の MBL が抑制されたことが長期予後と関連するのかを確認していく必要がある。